

行田市ヤングケアラー実態調査
報告書

令和8年2月
行田市
地域共生社会推進課

目 次

1. 調査の背景・目的	1
2. 調査方法、調査期間、調査対象	1
3. 調査の内容	2
4. 調査結果	2
(1) あなたについて	2
(2) 悩みごとや困りごと	3
(3) お世話や家事について	6
(4) 相談ニーズについて	9
(5) 居場所について	11
(6) 気づきと意向確認	12
5. 分析	14
(1) ヤングケアラーの可能性のある児童生徒	14
(2) ヤングケアラーと推察される児童生徒	15
(3) 支援が必要なヤングケアラーであると推察される児童生徒	15
(4) 支援が必要と思われるヤングケアラーの状況	16
6. 考察	17
(1) 行田市内のヤングケアラーについて	17
(2) 行田市内の支援が必要なヤングケアラーについて	17

1. 調査の背景・目的

近年、子どもを取り巻く状況の一つとして、「ヤングケアラー」が注目されており、厚生労働省や文部科学省の主導により、全国の自治体でヤングケアラーに関する実態調査や支援に関する取り組みが進められている。

令和6年の「子ども・若者育成支援推進法」の改正により、ヤングケアラーの支援は自治体の努力義務となっている。また、文部科学省の「生徒指導提要」の令和4年の改訂においてヤングケアラーへの支援が明記され、支援が必要な子どもを把握した場合、福祉部門等を通じて必要な支援につなげることが求められている。他方で、世話をしている子ども自身は、自らが困難な状況であると自覚がない場合もあり、ヤングケアラー自身に気づきを与えるとともに、支援の必要性・緊急性が高い世帯の確認は急務である。

行田市では、支援を必要とするヤングケアラーと思われる子どもを早期に発見し、こうした子どもがSOSを発信する機会を確保することを目的として調査を実施した。

2. 調査方法、調査期間、調査対象

(1) 調査方法

市内の学校において、埼玉県電子申請システムによる記名式アンケートを実施
(回答は任意)

(2) 調査期間

令和7年9月8日～令和7年10月16日

(3) 調査対象

市内の学校に在学中の小学5年生から中学3年生（特別支援学校を除く）

	対象児童数	回答数	回答率	対象校
小学5年生	556	471	84.7%	12校
小学6年生	573	487	85.0%	12校
中学1年生	538	263	48.9%	8校
中学2年生	630	361	57.3%	8校
中学3年生	561	345	61.5%	8校
合計	2,858	1,927	67.4%	20校

3. 調査の内容

- (1) 回答者の情報 (問 1～問 6)
- (2) 悩みや困りについて (問 7)
- (3) ヤングケアラーの可能性 (問 8-(1)～問 8-(6))
- (4) 相談ニーズについて (問 8-(7)～問 8-(9))
- (5) 居場所について (問 9～問 10)
- (6) 気づき (理解) と意向確認 (問 11～問 13)

4. 調査結果

(1) あなたについて

- ① 学校 ② 学年 ③ クラス・出席番号 ④氏名 ⑤性別 ⑥同居家族

	男	女	その他	答えたくない	回答数	児童生徒数	回答率
小学5年生	223	247	0	1	471	556	84.7%
小学6年生	238	244	1	4	487	573	85.0%
中学1年生	107	150	1	5	263	538	48.9%
中学2年生	169	188	1	3	361	630	57.3%
中学3年生	162	178	2	3	345	561	61.5%
合計	899	1,007	5	16	1,927	2,858	67.4%

(2) 悩みごとや困りごと

⑦-1 現在、困ったり、悩んでいることはありますか。【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
友達のこと	51	81	35	46	46	259
勉強のこと	52	63	63	101	124	403
進路のこと	19	26	24	91	130	290
部活動のこと	3	10	16	39	4	72
学校に必要なお金の こと	3	4	1	5	14	27
塾や習い事に行けな いこと	0	0	1	5	6	12
友達と遊べないこと	13	8	11	6	11	49
自分と家族の関係の こと	9	20	6	13	13	61
家族の中の人間関係 のこと	6	13	7	14	13	53
病気や障がいのある 家族のこと	0	7	2	4	6	19
自分のために使える 時間が少ないこと	5	10	15	10	12	52
その他	10	14	6	8	5	43
特にない	365	338	167	214	172	1,256

- 悩みや困りがあると回答した児童生徒は、回答者の 35.5%（小学5年生 23.4%、小学6年生 31.4%、中学1年生 37.3%、中学2年生 41.8%、中学3年生 50.1%）に上る。
- 中学生の多くは進路のこと、勉強のことについての悩みや困りを挙げている。
- 回答者全体のうち、3.4%（66人）が家族のことについて悩みや困りを抱えており、1.4%（27人）が学校生活に必要なお金のことなど経済面での困りを抱えている。

※ その他の内容は、家庭内のこと、学校のこと、自分自身のこと、習い事に関すること、人間関係に関すること、いじめに関する事等が挙げられていた。

⑦-2 「特にない」のみ 以外

悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれる人や話を聞いてくれる人がいますか。

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
いる	81	98	72	119	137	507
いない	9	16	6	11	9	51
相談や話はしたくない	20	39	20	21	27	127
合計	110	153	98	151	173	685

- 悩みや困りを抱えている児童生徒のうち、26.0%は相談相手がない、相談や話はしたくないと回答している。

⑦-3 「いる」(507人)

それは誰ですか。【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
家族	66	80	58	91	110	405
親せき	9	11	5	13	15	53
友人	40	54	48	97	97	336
学校の先生	27	30	21	46	57	181
スクールソーシャルワーカーや スクールカウンセラー	2	4	4	6	2	18
病院の人	1	2	2	0	2	7
ヘルパーさんなど 福祉サービスの人	0	0	0	0	1	1
市役所や保健センターの人	1	1	1	0	0	3
近所の人	1	4	2	1	1	9
SNS(LINE や X(旧:Twitter)、Instagram、 TikTok など) 上での知り合い	5	4	7	12	12	40
その他(誰か教えてください)	2	9	0	5	5	21

- 相談相手がいると答えた児童生徒(507人)のうち、95.7%(485人)は、家族や親戚・友人を相談相手としている。また、37.3%(189人)が学校の先生やSSW(スクールソーシャルワーカー)やSC(スクールカウンセラー)といった学校関係者を相談相手としている。

⑦-4 「いない」「相談や話はしたくない」(178人)

話していない、話したくない理由は何ですか。【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
誰かに相談するほどの悩みではない	9	18	8	11	18	64
家族以外の人に相談するような悩みではない	1	1	1	3	0	6
だれに相談するのが良いかわからない	6	15	7	16	9	53
相談できる人が周りにいない	2	10	3	9	8	32
家族のことなので話しにくい	7	5	2	11	7	32
家族のことを知られたくない	5	4	2	8	5	24
家族に対して嫌な思いを持たれたくない	4	9	3	10	3	29
相談しても何も変わらないと思う	11	24	11	24	22	92
その他(詳しく教えてください)	3	6	5	2	1	17

- 相談しない理由について、30.9% (55人) が「家族のことなので話しにくい」「家族のことを知られたくない」「家族に対して嫌な思いを持たれたくない」のいずれかを回答。
- 「誰に相談するのが良いかわからない」「相談できる人が周りにいない」と回答した38.2% (68人) の児童生徒については、相談先に困っていると思われる。

(3) お世話や家事について

⑧-1 あなたは家で家族の誰かのためにお世話や家事をしていますか。

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
している	42	32	20	24	11	129
していない	373	394	206	279	294	1,546
わからない	56	61	37	58	40	252
合計	471	487	263	361	345	1,927

⑧-2 「している」(129人)

あなたがしているお世話や家事の内容を下の絵から選んでください。【複数回答】

①



障がいや病気のある家族の代わりに買い物・料理・洗濯などの家事をしている

②



家族の代わりに幼い子どものお世話をしている
保育園・幼稚園の送り迎えをしている

③



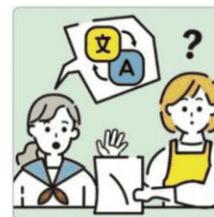
障がいや病気のある子どものお世話や見守りをしている

④



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている

⑤



日本語が得意ではない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

⑥



働いてお金をかせぎ、障がいや病気のある家族を助けている

⑦



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族のお世話をしている

⑧



がん・難病・心の病気などの家族のお世話をしている
(話を聞く・寄り添う・病院の付き添いなど)

⑨



障がいや病気のある家族の身の回りのお世話をしている

⑩



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの手伝い、お薬の管理などを行っている

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
①障がいや病気のある家族の代わりに買い物・料理・洗濯などの家事をしている	8	9	2	9	1	29
②家族の代わりに幼いきょうだいのお世話をしている、保育園・幼稚園の送り迎えをしている	9	11	4	5	3	32
③障がいや病気のあるきょうだいのお世話や見守りをしている	6	5	3	4	4	22
④目を離せない家族の見守りや声かけなどの気遣いをしている	11	4	0	3	2	20
⑤日本語が得意ではない家族や障がいのある家族のために通訳をしている	3	1	3	4	1	12
⑥働いてお金をかせぎ、障がいや病気のある家族を助けている	0	1	0	1	0	2
⑦アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族のお世話をしている	0	0	3	3	0	6
⑧がん・難病・心の病気などの家族のお世話をしている（話を聞く・寄り添う・病院の付き添いなど）	1	5	0	4	0	10
⑨障がいや病気のある家族の身の回りのお世話をしている	0	2	2	2	0	6
⑩障がいや病気のある家族の入浴やトイレの手伝い、お薬の管理などをしている	2	1	1	2	2	8
その他（何をしているか教えてください）	9	5	7	5	2	28

※ その他：食器洗い、お風呂掃除、洗濯物（干す・取り込む・畳むなど）など家事の手伝い、ペットの世話など

⑧-3 お世話等を必要としている方は誰ですか。(129人)【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
母親	15	12	7	13	3	50
父親	11	5	5	5	3	29
祖母	8	5	2	5	2	22
祖父	7	3	0	5	2	17
兄弟姉妹	17	15	7	9	4	52
その他（誰か教えてください）	5	2	6	2	0	15

※ その他：甥、姪、祖祖父など

⑧-4 どのくらいお世話や家事をしていますか。

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
ほぼ毎日	19	10	7	10	4	50
1週間に3~5日	6	6	9	5	2	28
1週間に1~2日	11	9	2	5	2	29
1か月に1~3日	4	4	1	3	2	14
その他（詳しく教えてください）	2	3	1	1	1	8
合計	42	32	20	24	11	129

- お世話や家事を「している」と回答した129人のうち、「ほぼ毎日」が38.8%（50人）、
「1週間に3~5日」が21.7%（28人）、「1週間に1~2日」が22.5%（29人）となっている。

⑧-5 お世話や家事をしているために、やりたいけどできないことがありますか。（129人）

【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
学校に行きたくても行けない	0	0	0	0	0	0
遅刻や早退をしてしまう	1	2	0	1	0	4
授業に集中できない	2	0	0	3	1	6
家で宿題や勉強をする時間がない	3	1	1	4	2	11
睡眠時間が足りない	3	0	2	6	0	11
自由に過ごせる時間がない	3	4	3	4	2	16
特になし	36	26	17	16	8	103
その他（詳しく教えてください）	0	0	0	2	0	2

※ その他：習い事、友達と自由に遊べない

⑧-6 お世話や家事をすることを、どのように感じていますか。(129人)【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
満足している (嬉しい、楽しい、 お世話が好きだ)	23	9	8	10	6	56
仕方がない	10	12	3	10	4	39
いやだ	0	1	0	2	0	3
身体が少しきつい	2	4	1	3	0	10
身体がとてもきつい	0	1	0	1	0	2
心が少し辛い	2	2	0	0	1	5
心がとても辛い	1	0	0	2	0	3
何も感じていない	11	11	9	4	2	37
その他(詳しく教えて ください)	2	0	2	0	0	4

(4) 相談ニーズについて

⑧-7 学校や周りの大人に助けてほしいことや、手伝ってほしいことはありますか。(129人)

【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
自分の今の様子について話を聞いてほしい	3	3	2	5	1	14
家族のお世話について相談したい(お世話をしない方法も含めて)	1	1	1	2	1	6
将来のことについて相談したい	4	1	2	6	1	14
特にない	33	24	15	15	6	93
わからない	3	4	2	2	3	14
誰にも知られたくない	0	3	0	3	0	6
その他(詳しく教えて ください)	0	1	1	0	0	2

- お世話をしていると回答した129人のうち、約17.1% (22人) については、「話を聞いてほしい」「相談をしたい」という相談ニーズがあるが、6人の児童生徒については、「誰にも知られたくない」と回答している。

- ⑧-8 「自分の今の様子について話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談したい」「将来のことについて相談したい」「その他」を回答した児童のみ(22人)
 どんな人に話を聞いてほしい、相談に乗ってほしいですか。【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
家族	5	3	2	6	1	17
親せき	1	0	0	3	0	4
友達	3	2	3	4	1	13
学校の先生	3	2	3	6	1	15
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	1	1	0	2	0	4
病院の人	0	0	1	1	0	2
ヘルパーさんなど福祉サービスの人	0	0	0	1	0	1
市役所や保健センターの人	0	0	1	1	0	2
近所の人	1	0	0	1	0	2
SNS(LINEやX(旧:Twitter)Instagram、TikTokなど)上での知り合い	0	0	1	1	0	2
その他(誰か教えてください)	0	0	0	0	0	0

- 相談ニーズのある児童生徒のうち、68.2%(15人)が、学校の先生やSSW、SCといった身近な学校関係者に話を聞いてもらいたいと希望している。

- ⑧-9 どのような方法で話を聞いてほしい、相談に乗ってほしいですか。(22人)
 【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
直接会って	5	3	3	5	1	17
電話	2	0	0	3	1	6
SNS(LINEやX(旧:Twitter)、Instagram、TikTokなど)	0	0	1	2	0	3
メール	2	1	0	2	0	5
その他(詳しく教えてください)	0	0	0	0	0	0

- 直接会って話を聞いてほしいという希望が一番多く、次いで電話やメール、SNSとなっている。

(5) 居場所について

⑨-1 家や学校に居づらいつと感じた時に他にいく場所がありますか。

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
ある	114	142	79	122	121	578
ない	257	256	119	165	157	954
わからない	100	89	65	74	67	395
合計	471	487	263	361	345	1,927

● 家や学校に居づらいつと感じた時にける第3の居場所があると答えた児童生徒は30.0%に上る。

⑨-2 「ある」そこはどのような場所ですか。(578人)【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
祖父・祖母の家	70	84	40	67	53	314
親せきの家	18	27	17	26	16	104
友人の家	47	58	32	49	46	232
塾や習い事などの場所	14	15	11	19	40	99
部活動	0	1	15	23	5	44
学校の教室以外の場所 (保健室・図書室など)	18	20	9	18	10	75
公園や自然の中で遊べる 場所	21	39	10	23	28	121
ショッピングセンター・ コンビニ等のお店	6	17	10	21	17	71
図書館や公民館、児童館な どの施設	12	13	3	15	14	57
食事や軽食を無料か安く 食べることができる場所	5	7	4	7	6	29
無料で勉強を見てくれる 場所	0	3	0	2	0	5
オンライン空間 (SNS、 オンラインゲームなど)	19	24	18	32	26	119
悩みごとの相談に乗ったり、 サポートしてくれる場所 (電話やオンラインを含む)	5	6	2	4	2	19
その他 (詳しく教えて ください)	5	13	4	3	5	30

● 祖父母の家が54.3%、次いで友人の家が40.1%と多く、次いで、公園や自然の中で遊べる場所が20.9%、オンライン空間 (SNS、オンラインゲームなど) が20.6%となっている。

- ⑩ 困ったときや、いつもいる場所で居づらいと思ったときにどんな居場所がほしいと思いますか。【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
いつでも行きたいときに行ける	206	237	132	199	209	983
ひとりで過ごせたり、何もせずのんびりできる	164	201	127	199	182	873
ありのままにいられる、自分を否定されない	94	119	90	139	100	542
好きなことをして自由に過ごせる	189	252	151	211	180	983
自分の意見や希望を受け入れてもらえる	92	120	71	83	74	440
いろんな人と出会える、友達と過ごせる	140	144	77	95	74	530
新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる	76	69	46	55	52	298
悩みごとの相談に乗ってもらえたり、一緒に遊んでくれる人がいる	140	136	75	100	85	536
居場所は知らない	50	38	11	17	15	131
わからない	59	70	37	29	31	226
その他（詳しく教えてください）	5	1	1	0	1	8

(6) 気づきと意向確認

- ⑪ あなたはヤングケアラーにあてはまると感じますか。

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
はい	12	14	7	6	6	45
いいえ	402	397	220	308	304	1,631
わからない	57	76	36	47	35	251
合計	471	487	263	361	345	1,927

⑫ 回答の内容を学校の先生に教えてもよいですか。

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
よい	337	316	165	248	237	1,303
よくない	64	76	45	42	39	266
わからない	70	95	53	71	69	358
合計	471	487	263	361	345	1,927

● 学校に回答を教えて「よい」は回答者全体の67.6%に上る。

⑬-1 回答の内容について学校の先生以外の人にお話を聞かせてもらえますか。

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
よい	129	114	56	81	79	459
よくない	165	165	75	112	100	617
わからない	177	208	132	168	166	851
合計	471	487	263	361	345	1,927

⑬-2 「よい」

どこでお話を聞かせてもらえますか。【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
学校	85	78	37	68	70	338
自分の家	66	58	22	27	22	195
その他	2	3	2	2	1	10

※ その他：学童、放課後等デイサービス、個人の電話番号、個人のメールアドレスなど

5. 分析

(1) ヤングケアラーの可能性のある児童生徒

お世話や家事をしていると回答した児童生徒は、129人(6.7%)に上る。このうち、ヤングケアラーにあてはまると思うかについて、「はい」「わからない」と答えた児童生徒65人(50.4%)については、ヤングケアラーの可能性があると考えられる。これは、回答者全体の3.4%に当たる。

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
している	42	32	20	24	11	129

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
はい	12	7	3	5	4	31
わからない	6	13	4	9	2	34
ヤングケアラーの可能性のある児童数	18	20	7	14	6	65
いいえ	24	12	13	10	5	64
合計	42	32	20	24	11	129

(2) ヤングケアラーと推察される児童生徒

ヤングケアラーの可能性のある児童生徒 65 人のうち、やりたいけどできないことが「ある」（「特にない」以外を選択した児童生徒）と回答した 23 人については、ヤングケアラーと推察される。これは、回答者全体の 1.2% に当たる。【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
学校に行きたくても行けない	0	0	0	0	0	0
遅刻や早退をしてしまう	1	1	0	2	0	4
授業に集中できない	1	0	0	3	1	5
家で宿題や勉強をする時間がない	2	1	1	4	2	10
睡眠時間が足りない	3	0	2	5	0	10
自由に過ごせる時間がない	1	4	3	3	2	13
特にない	14	14	4	7	3	42
その他	0	0	0	1	0	1
特にない以外を選択した児童生徒数 (ヤングケアラーと推察)	4	6	3	7	3	23

(3) 支援が必要なヤングケアラーであると推察される児童生徒

ヤングケアラーと推察される児童生徒 (23 人) が、家事やお世話をどのように感じているかという問いに「満足している」「何も感じていない」のみを回答した児童生徒を除く 16 人については、なんらかの負担を感じている支援が必要なヤングケアラーであると推察される。

【複数回答】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
満足している (嬉しい、楽しい、お世話が好きだ)	3	0	0	2	1	6
仕方がない	1	2	1	5	2	11
いやだ	0	0	0	1	0	1
身体が少しきつい	1	3	1	2	0	7
身体がとてもきつい	0	1	0	1	0	2
心が少し辛い	1	1	0	0	1	3
心がとても辛い	0	0	0	2	0	2
何も感じていない	0	2	1	0	0	3
その他	0	0	1	0	0	1
支援が必要なヤングケアラーと推察 「満足している」「何も感じていない」のみ回答した児童を除く	2	4	3	5	2	16

(4) 支援が必要と思われるヤングケアラーの状況

【家事やお世話の頻度】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
ほぼ毎日	1	2	2	4	0	9
1週間に3～5日	0	1	1	0	1	3
1週間に1～2日	0	1	0	0	1	2
1か月に1～3日	0	0	0	1	0	1
その他（詳しく教えてください）	1	0	0	0	0	1
合計	2	4	3	5	2	16

● 56.3%の児童生徒が「ほぼ毎日」お世話や家事をしている。

【お世話の内容】

	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
①障がいや病気のある家族の代わりに買い物・料理・洗濯などの家事をしている	0	3	1	4	1	9
②家族の代わりに幼いきょうだいのお世話をしている、保育園・幼稚園の送り迎えをしている	1	1	1	1	1	5
③障がいや病気のあるきょうだいのお世話や見守りをしている	0	1	1	1	0	3
④目を離せない家族の見守りや声かけなどの気遣いをしている	1	1	0	1	0	3
⑤日本語が得意ではない家族や障がいのある家族のために通訳をしている	0	0	1	1	0	2
⑥働いてお金をかせぎ、障がいや病気のある家族を助けている	0	0	0	0	0	0
⑦アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族のお世話をしている	0	0	1	2	0	3
⑧がん・難病・心の病気などの家族のお世話をしている（話を聞く・寄り添う・病院の付き添いなど）	0	1	0	3	0	4
⑨障がいや病気のある家族の身の回りのお世話をしている	0	1	2	1	0	4
⑩障がいや病気のある家族の入浴やトイレの手伝い、お薬の管理などをしている	0	0	0	0	0	0
その他（何をしているか教えてください）	0	1	0	1	0	2

6. 考察

(1) 行田市内のヤングケアラーについて

- ・ 調査の結果、回答者全体の 6.7% (129 人) がお世話や家事をしていると回答している。
- ・ お世話や家事をしていると回答した児童生徒のうち、50.4% (65 人) がヤングケアラーに「あてはまる」「わからない」と回答し、内、23 人 (回答者全体の 1.2%) がやりたいけどできないことが「ある」と回答している。
- ・ この結果を今回の調査対象者 (小学 5 年生～中学 3 年生：2,858 人) に当てはめると、ヤングケアラーと推察される児童生徒が、対象年代において約 34 人いることが推察される。

(2) 行田市内の支援が必要なヤングケアラーについて

- ・ ヤングケアラーと推察される児童生徒のうち、お世話や家事をすることをどのように感じているかとの問いに、「満足している」「何も感じていない」を除く児童生徒は、回答者全体の 0.8% (16 人) であり、この児童生徒について、支援が必要なヤングケアラーであると推察される。
- ・ この結果を今回の調査対象者 (小学 5 年生～中学 3 年生：2,858 人) に当てはめると、支援が必要なヤングケアラーである児童生徒が、対象年代において約 23 人いることが推察される。

近年、ヤングケアラーへの世間の注目度は高まっているものの、子ども自身が「ヤングケアラー」と気付いていない場合も多い。

本調査では児童生徒に対し、自分自身が「ヤングケアラー」ではないかという気付きを促すとともに、調査結果により把握したヤングケアラーを支援につなぐきっかけとなった。

今回発見につながった支援が必要なヤングケアラーについては、学校と情報を共有しながら個々に対応し、順次支援を開始している。情報共有の際には、日頃から学校側が生活状況を気にかけていた児童生徒の該当も多かった一方で、そうでない者も一定数いた。このことから、児童生徒自身から回答を行う本調査の手法は有効であると考えられる。

ただし、本調査では調査対象を小学 5 年から中学 3 年生としており、高校生年代の調査ができておらず、18 歳未満の状況把握としては十分ではない。今後は、高校生年代を対象とした実態調査の実施も検討していく。

また、子どもと接する立場にある大人や子ども自身がヤングケアラーについて正しく理解することで、ヤングケアラーの更なる早期発見につながる。そのために、ヤングケアラーについての周知や啓発、研修等を継続し、対象者のニーズに寄り添った支援につなげていきたい。

今後についても、当調査を継続実施して児童生徒の状況把握を進めるとともに、支援体制の整備等を行っていきたい。